

〈研究ノート〉

高齢化社会と地域福祉 (7)

——日韓におけるスポーツと子どもの意識調査——

石橋 勇・日隈 健壬

(受付 2001年9月28日)

目 次

- I. はじめに
- II. 調査の目的
- III. 調査地域の特徴
- IV. 調査の方法
- V. 調査の期間
- VI. 調査の結果
- VII. 日本と韓国との比較
- VIII. おわりに

I. はじめに

日本・韓国ともに、これまでにない速さで少子高齢化社会を迎えようとしている。少子高齢化が高まることにより、年金や医療・福祉などの公的負担が増大し、国と地方の財政問題だけでなく、社会問題としても多くの課題として投げかけられている。この調査研究は、国や地方自治体の福祉財源の圧迫を軽減し、健やかで明るい社会づくりが両国ともに最重要課題となることを前提としている。その中で高齢者自らが、介護を必要とする高齢になる前に健康増進を図り、老後を少しでも長く自立できる身体づくりを実践し、「健康寿命」を延ばすことが必要になってくる。そのためには、

* この調査研究は広島修道大学総合研究所の調査研究費を受けたものである。

生涯にわたって続けられる運動（スポーツ）の楽しみ方や基本的動作などを子どもの頃から身につけることが重要になるという仮説を立て、まず子どもたちのスポーツにかかわる実態を調査し、把握する必要がある。前回の調査では、日本（千代田町）・韓国（霊巖邑）で小学校に通う児童を対象に「スポーツとのかかわり度調査」を行った（石橋勇ほか，2001. 3，『日韓の生涯スポーツの現状と課題』アプローチ第9号）。今回の調査では、同地区の高校生を対象に調査を行い、日韓の高校生による比較研究を行い、現状を把握し、今後の課題を探る。

Ⅱ. 調査の目的

本調査は、生涯スポーツなどのスポーツ振興を積極的に推し進めている日本と韓国との比較である。前回の調査では（石橋勇ほか，2001. 3，『日韓の生涯スポーツの現状と課題』アプローチ第9号），日本と韓国で現在小学校に通っている児童（中・高学年）を対象にし、子どもたちがスポーツにどうかかわっているのかについての実態を調査集計し、施設・設備等のハード面や、指導者などのソフト面との関連やスポーツに対するとらえ方などを、調査データをもとに分析を行った。今回の調査では、前回同様の内容・地域で高等学校に通っている生徒を対象に調査分析を行った。

Ⅲ. 調査の地域の特徴

1) 日本／広島県山県郡千代田町

千代田町は、広島県の北西部に位置し、面積は約171平方キロメートル、人口は約10,900人、世帯数は約3,800世帯の比較的農業中心の地域である。また、この地域の高齢人口比率は25.0%という数字で、広島県全体の15.8%をかなり上回っている。（総務庁，1995. 10，『国勢調査（平成7年度）』）

2) 韓国／全羅南道霊岩郡霊岩邑

霊岩邑は、ソウルの南西部に位置し、面積は59.61平方キロメートルで、

その内28%が耕地で、58%が林野、残りの16%が住宅などである。人口は、約10,900人で、世帯数は約3,600世帯でその内農家の占める割合は約37%である。主に農業中心の地域で、特に米や梨・スイカなどが有名で、その他にも工芸品としては竹櫛などが有名な産地である。

この地域の高齢人口比率は約15%で、韓国全体の6.8%をかなり上回っている。(霊岩郡庁, 2000, 『霊岩郡概況』)

IV. 調査の方法

日本では、高等学校に依頼し、配布・回収をおこなった。

韓国では、広島との文化交流をおこなっている「ちんぐの会」に協力を得て、調査を実施した。

V. 調査期間

日本（広島県山県郡千代田町）では、2001年6月調査を実施。

韓国（霊岩郡霊岩邑）では、2001年7月に調査を実施。

VI. 調査の結果

1) 集計結果における日本（千代田町）の特徴

(1) スポーツの実施率

現在、スポーツを「行っている」と回答した子どもは47.4%で、男女別内訳は男子が71.9%、女子が28.1%であった。(表1-1)

(2) スポーツの種類

種目は、全体ではバレーボール、バスケットボール、サッカーの順。男女別では、男子がサッカー、野球、バレーボールの順で、女子はバレーボール、ホッケー、テニスという順である。(表1-2)

(3) スポーツを始めたキッカケ

「自分から始めた」が一番多く、61.8%。続いて、「友達から」が18.7%であった。(表1-3)

(4) スポーツの頻度

子どもの1週間のスポーツ頻度を見ると、「3日～6日行っている」が63.0%、続いて「毎日」が23.6%であった。(表1-4)

(5) スポーツ活動の形態

スポーツ活動の形態をみると、ほとんどが「学校のクラブ活動」であった。(表1-5)

(6) 指導者の形態

指導者も「学校の先生」に指導されるケースの方が多い。(表1-6)

(7) スポーツ中のケガ

スポーツ活動中でのケガについての問いには、「ケガをしたことがある」と答えた子どもは55.5%と半数以上の子どもがケガをしたことがあるという結果であった。(表1-7)

(8) ケガの相談

ケガをしたときに、だれに相談をするかという問いには、「指導者に相談する」が36.4%、「親に相談する」が23.4%であった。(表1-8)

(9) 将来のスポーツ活動の継続

現在おこなっているスポーツを、「将来続けていきたい」と答えた子どもが58.1%であった。(表1-9)

(10) 高齢になってからのスポーツに対する自信

年をとってもスポーツをする「自信がある」と答えた子どもが34.6%、「自信がない」と答えたのが25.2%であった。(表1-10)

(11) スポーツとテレビゲームの比較

「スポーツとテレビゲームはどちらが好きですか」の問いに対して、「スポーツ」と答えた子どもは45.6%、「テレビゲーム」と答えた子どもは、20.8%であった。(表1-11)

(12) 放課後や休日の過ごし方

放課後や休日の過ごし方で「スポーツ」と答えた子どもは21.1%、「テレビゲーム」と答えた子どもは13.8%であった。(表1-12)

(13) スポーツ施設の必要性

スポーツ施設があったら、「もっとスポーツをする」と答えた子どもは41.1%であった。(表 1-13)

(14) スポーツ指導者の必要性

近くに指導者がいれば、「もっとスポーツをする」と答えた子どもは29.6%であった。(表 1-14)

(15) スポーツと進学準備

最後に、全員にスポーツと進学準備についてどちらを選ぶかという問いをしたところ、「受験」と答えた子どもは36.6%、「スポーツ」と答えた子どもは11.7%であった。(表 1-15)

2) 集計結果における韓国（靈巖邑）の特徴

(1) スポーツの実施率

現在、スポーツを「行っている」と回答した子どもは21.5%で、男女別内訳は男子が70.9%、女子が29.1%であった。(表 2-1)

(2) スポーツの種類

種目は、全体ではサッカー、合気道、バスケットボールの順。男女別では、男子がサッカー、テコンドー、バスケットボールの順で、女子は合気道、バドミントン、ジョギングという順である。(表 2-2)

(3) スポーツを始めたキッカケ

「自分から始めた」が一番多く、73.3%。続いて、「友達から」が12.8%であった。(表 2-3)

(4) スポーツの頻度

子どもの1週間のスポーツ頻度を見ると、「1日～2日行っている」が42.7%、続いて「3日～6日行っている」が40.0%であった。(表 2-4)

(5) スポーツ活動の形態

スポーツ活動の形態をみると、「学校のクラブ」が44.7%で、「地域のクラブ」が20.0%であった。(表 2-5)

(6) 指導者の形態

指導者では「学校の先生」が33.7%で、「地域の指導者」が21.7%であった。(表2-6)

(7) スポーツ中のケガ

スポーツ活動中でのケガについての問いには、「ケガをしたことがある」と答えた子どもは44.0%と半数近いの子どもがケガをしたことがあるという結果であった。(表2-7)

(8) ケガの相談

ケガをしたときに、だれに相談をするかという問いには、「親に相談する」が30.0%、「指導者に相談する」が28.3%であった。(表2-8)

(9) 将来のスポーツ活動の継続

現在おこなっているスポーツを、「将来続けていきたい」と答えた子どもが67.1%であった。(表2-9)

(10) 高齢になってからのスポーツに対する自信

年をとってもスポーツをする「自信がある」と答えた子どもが61.2%、「自信がない」と答えたのが10.6%であった。(表2-10)

(11) スポーツとテレビゲームの比較

「スポーツとテレビゲームはどちらが好きですか」の問いに対して、「テレビゲーム」と答えた子どもが58.1%、「スポーツ」と答えた子どもが30.2%であった。(表2-11)

(12) 放課後や休日の過ごし方

放課後や休日の過ごし方で「テレビゲーム」と答えた子どもは53.4%、「スポーツ」と答えた子どもは7.8%であった。(表2-12)

(13) スポーツ施設の必要性

スポーツ施設があったら、「もっとスポーツをする」と答えた子どもは67.3%であった。(表2-13)

(14) スポーツ指導者の必要性

近くに指導者がいれば、「もっとスポーツをする」と答えた子どもは60.4%であった。(表 2-14)

(15) スポーツと進学準備

最後に、全員にスポーツと進学準備についてどちらを選ぶかという問いをしたところ、「受験」と答えた子どもは63.3%、「スポーツ」と答えた子どもは12.3%であった。(表 2-15)

3) 2002年日韓共同開催ワールドカップサッカーについての集計

2002年の日韓共同開催のワールドカップサッカーへ対する子どもたちの意識について調査した。

(1) サッカーの興味

「サッカーに興味があるか」と聞いたところ、千代田町では38.8%、霊巖邑では75.9%の子どもが「はい」と答えている。

(2) 2002年ワールドカップサッカーの興味

「2002年ワールドカップサッカーに興味があるか」と聞いたところ、千代田町では43.7%、霊巖邑では81.7%の子どもが「はい」と答えている。

(3) 2002年ワールドカップサッカーのテレビ観戦

「テレビで2002年ワールドカップサッカーを見るか」と聞いたところ、千代田町では55.6%、霊巖邑では85.1%の子どもが「見る」と答えた。

(4) 2002年ワールドカップサッカーの会場観戦

「試合会場に行くか」と聞いたところ、千代田町では86.8%が「行かない」、「行く」は1.5%、霊巖邑では60.8%が「行かない」と答え、「行く」と答えたのは28.8%。

(5) 2002年ワールドカップサッカーの優勝国

2002年ワールドカップサッカーで「優勝するのはどこの国」だと思いますかと聞いたところ、千代田町ではフランス、日本の順で、霊巖邑では韓国、フランスの順で優勝すると答えた。

Ⅶ. 日本と韓国との比較

(1) 子どものスポーツ実施率

地域 (千代田町・霊巖邑) × スポーツの実施 (行う・行わない) のクロス集計を行った (表 3-1)。χ² 検定を行ったところ、有意な差が見られた (χ² (1) = 49.7 (p < .01)) (表 3-2)。その結果、千代田町の方が霊巖邑より「スポーツの実施率」が高いことが明らかになった。

表 3-1 実施率の比較

	回 答		合計
	はい	いいえ	
都市 千代田町 度数	128	142	270
調整済み 残差	7.1	-7.1	
霊巖邑 度数	86	314	400
調整済み 残差	-7.1	7.1	
合計 度数	214	456	670

表 3-2 カイ 2 乗検定

	値	自由 度	漸近有 意確率 (両側)	正確意 確率 (両側)	正確意 確率 (片側)
Pearson の カイ 2 乗	49.770 ^b	1	.000		
連続修正 尤度比	48.585	1	.000		
Fisher の直接法	49.423	1	.000		
有効な ケースの数	670			.000	.000

a. 2×2 表に対してのみ計算

b. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 86.24 です。

(2) 一週間の頻度

地域 (千代田町・霊巖邑) × 一週間の頻度のクロス集計 (1 日～2 日・3 日～6 日・毎日) を行った (表 3-3)。χ² 検定を行ったところ、有意な差が見られた (χ² (2) = 21.1 (p < .01)) (表 3-4)。その結果、千代田町の方が霊巖

表 3-3 一週間の頻度

	回 答			合計
	1 日～ 2 日	3 日～ 6 日	毎日	
都市 千代田町 度数	17	80	30	127
調整済み 残差	-4.7	3.2	1.1	
霊巖邑 度数	32	30	13	75
調整済み 残差	4.7	-3.2	-1.1	
合計 度数	49	110	43	202

表 3-4 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有 意確率 (両側)
Pearson の カイ 2 乗	22.120 ^a	2	.000
尤度比	21.619	2	.000
有効な ケースの数	202		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 15.97 です。

邑より「一週間の頻度」が高いことが明らかになった。

(3) スポーツの形態

地域（千代田町・霊巖邑）×スポーツの形態のクロス集計（学校のクラブ・地域のクラブ・その他）を行った（表3-5）。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた（ $\chi^2(2)=44.9(p<.01)$ ）（表3-6）。その結果、千代田町の方が霊巖邑より「学校のクラブ」でスポーツを行っていることが明らかになった。

表3-5 スポーツの形態

		回 答			合計
		学校の クラブ	地域の クラブ	その他	
都市 千代田町	度数	105	6	8	119
	調整済み 残差	6.7	-3.3	-5.2	
霊巖邑	度数	38	17	30	85
	調整済み 残差	-6.7	3.3	5.2	
合計	度数	143	23	38	204

表3-6 カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有 意確率 (両側)
Pearson の カイ2乗	44.972 ^a	2	.000
尤度比	46.010	2	.000
有効な ケースの数	204		

a. 0セル (.0%) は期待度数が5未満です。
最小期待度数は9.58です。

(4) 指導者の形態

地域（千代田町・霊巖邑）×指導者の形態のクロス集計（学校の先生・地域の指導者・その他）を行った（表3-7）。 χ^2 検定を行ったところ、有意

表3-7 指導者の形態

		回 答			合計
		学校の 先生	地域の 指導者	その他	
都市 千代田町	度数	94	7	17	118
	調整済み 残差	6.6	-3.3	-4.8	
霊巖邑	度数	28	18	37	83
	調整済み 残差	-6.6	3.3	4.8	
合計	度数	122	25	54	201

表3-8 カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有 意確率 (両側)
Pearson の カイ2乗	43.167 ^a	2	.000
尤度比	44.160	2	.000
有効な ケースの数	201		

a. 0セル (.0%) は期待度数が5未満です。
最小期待度数は10.32です。

な差が見られた ($\chi^2(2)=43.1(p<.01)$) (表3-8)。その結果、千代田町の方が霊巖邑より「学校の先生」の指導でスポーツを行っていることが明らかになった。

(5) 高齢になったときの自信

地域 (千代田町・霊巖邑)×高齢になったときの自信のクロス集計 (はい・いいえ・どちらとも言えない) を行った (表3-9)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた ($\chi^2(2)=15.5(p<.01)$) (表3-10)。その結果、霊巖邑の方が千代田町より「高齢になったときの自信」が高いことが明らかになった。

表 3-9 高齢になったときの自信

	回 答			合計
	はい	いいえ	どちらとも言えない	
都市 千代田町 度数	44	32	51	127
調整済み残差	-3.8	2.6	1.8	
霊巖邑 度数	52	9	24	85
調整済み残差	3.8	-2.6	-1.8	
合計 度数	96	41	75	212

表 3-10 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	15.580 ^a	2	.000
尤度比	15.915	2	.000
有効なケースの数	212		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 16.44 です。

(6) スポーツとテレビゲームの比較

地域 (光州市・霊巖邑)×スポーツとテレビゲームの比較 (スポーツ・テレビゲーム・どちらでもない) のクロス集計を行った (表3-11)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた ($\chi^2(2)=96.3(p<.01)$) (表3-12)。その結果、千代田町の方が霊巖邑より「スポーツ」を選ぶ方が高いことが明らかになった。

表 3-11 スポーツとテレビゲームの比較

	回 答			合計
	スポ ーツ	テレビ ゲーム	どちら とも ない	
都市 千代田町 度数	118	54	87	259
調整済み 残差	4.0	-9.4	6.8	
霊巖邑 度数	118	227	46	391
調整済み 残差	-4.0	9.4	-6.8	
合計 度数	236	281	133	650

表 3-12 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有 意確率 (両側)
Pearson の カイ 2 乗	96.314 ^a	2	.000
尤度比	100.385	2	.000
有効な ケースの数	650		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。
最小期待度数は 53.00 です。

(7) 放課後や休日の過ごし方

地域（光州市・霊巖邑）×放課後や休日の過ごし方（スポーツ・テレビゲーム・塾（習い事）・その他）のクロス集計を行った（表 3-13）。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた（ $\chi^2(3)=119.2(p<.01)$ ）（表 3-14）。残差分析をしたところ、千代田町の方が霊巖邑より放課後や休日に「スポーツ」をよく行い、霊巖邑の方が千代田町より「テレビゲーム」や「塾（習い事）」をよく行うことが明らかになった。

表 3-13 放課後や休日の過ごし方

	スポ ーツ	テレビ ゲーム	塾(習 い事)	その 他	合計
都市 千代田町 度数	55	36	1	169	261
調整済み 残差	4.9	-10.3	-6.7	10.9	
霊巖邑 度数	31	211	65	88	395
調整済み 残差	-4.9	10.3	6.7	-10.9	
合計 度数	86	247	66	257	656

表 3-14 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有 意確率 (両側)
Pearson の カイ 2 乗	199.216 ^a	3	.000
尤度比	223.597	3	.000
有効な ケースの数	656		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満
です。最小期待度数は 26.26 です。

(8) スポーツ施設の必要性

地域（光州市・霊巖邑）×スポーツ施設の必要性（はい・いいえ・どちら

とも言えない) のクロス集計を行った (表 3-15)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた ($\chi^2(2)=80.2(p<.01)$) (表 3-16)。その結果、霊巖邑の方が千代田町より「スポーツ施設の必要性」が高いことが明らかになった。

表 3-15 施設の必要性

	回 答			合計
	はい	いいえ	どちらとも言えない	
都市 千代田町 度数	104	38	111	253
調整済み残差	-6.6	-1.6	8.9	
霊巖邑 度数	267	79	51	397
調整済み残差	6.6	1.6	-8.9	
合計 度数	371	117	162	650

表 3-16 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	80.241 ^a	2	.000
尤度比	79.387	2	.000
有効なケースの数	650		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 45.54 です。

(9) 指導者の必要性

地域 (光州市・霊巖邑) × 指導者の必要性 (はい・いいえ・どちらとも言えない) のクロス集計を行った (表 3-17)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた ($\chi^2(2)=82.3(p<.01)$) (表 3-18)。その結果、霊巖邑の方が千代田町より「指導者の必要性」が高いことが明らかになった。

表 3-17 指導者の必要性

	回 答			合計
	はい	いいえ	どちらとも言えない	
都市 千代田町 度数	73	60	114	247
調整済み残差	-7.6	.0	8.5	
霊巖邑 度数	236	95	60	391
調整済み残差	7.6	.0	-8.5	
合計 度数	309	155	174	638

表 3-18 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	82.339 ^a	2	.000
尤度比	82.723	2	.000
有効なケースの数	638		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 60.01 です。

(10) スポーツと進学準備

地域（光州市・霊巖邑）×スポーツと進学準備（受験・スポーツ・どちらとも言えない）のクロス集計を行った（表3-19）。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた（ $\chi^2(2)=54.0(p<.01)$ ）（表3-20）。その結果、霊巖邑の方が千代田町より「受験」と選ぶ方が高いことが明らかになった。

表 3-19 スポーツと進学準備

	回 答			合計
	受験	ス ポ ー ツ	どちら とも 言 え な い	
都市 千代田町 度数	94	30	133	257
調整済み 残差	-6.7	-.2	7.1	
霊巖邑 度数	247	48	95	390
調整済み 残差	6.7	.2	-7.1	
合計 度数	341	78	228	647

表 3-20 カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有 意確率 (両側)
Pearson の カイ 2 乗	54.081 ^a	2	.000
尤度比	54.178	2	.000
有効な ケースの数	647		

a. 0 セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。
最小期待度数は 30.98 です。

Ⅷ. お わ り に

今回の調査で日本と韓国を比較し、日本の子どもの方がスポーツに時間を費やしていることが分かった。また、韓国の場合、特に女の子のスポーツ実施率が非常に低かった。

スポーツを行う頻度、スポーツとテレビゲームとの比較、放課後や休日の過ごし方、どの項目を見ても日本が韓国よりスポーツに時間を費やし、関心が強いことが分かった。しかし、活動形態を見ると学校のクラブ活動がほとんどで、地域での活動は少ない。日本の方が韓国よりも、地域での施設・設備が上回っているにもかかわらず、韓国の方が地域でスポーツ活動を行っている比率は高い。日本の場合、子どもたちは学校のクラブ活動でスポーツを行うケースが多く、「学校依存型スポーツ活動」と言える。現在、日本では「地域総合型スポーツクラブ」といったものに代表される

ように、地域に依存した形である「地域依存型スポーツ活動」の普及を行っているが、この世代では普及に至ってはならず、この世代が高齢化したときにスムーズに地域スポーツに溶け込むためにも、若いうちに「地域依存型スポーツ活動」にも関わることが、今後の課題として残される。

また、将来の「継続性」では統計的に優位な差は無かったが、若干韓国の方が上回っている。「高齢になってからの自信」では、韓国の方が断然高い数字で現された。このような結果を見ると、スポーツに対する「満足度」や「必要性」を強く感じているのは韓国の方が高いと推測できる。

韓国の場合、日本よりもスポーツ振興に対してハード面・ソフト面の施策が遅れている。これは近年、韓国経済の破綻が、地方へのスポーツ施設・設備の遅れとなって現れたとも考えられる。そのため、高校生たちの欲求も施設の必要性や指導者の必要性が高い数字で求められる結果となっている。

日本でも韓国でも「進学」に関しては、社会的にも重要な課題となっているが、特に韓国の地方出身者はソウルを目指す傾向が強い。そのため、受験に関しては日本よりもシビアでこの時期の子どもにとってスポーツを行うような環境ではない。こうした、社会的な構造が子どもたちのスポーツに対する認識、理解、必要性の高さにも関わらず、生涯にわたって続けられる運動（スポーツ）の楽しみ方や基本的動作などを身につけるのに最適な時期の妨げにもなっていることが言える。また、日本のように、学校のクラブ活動が競技スポーツを中心に過酷なスポーツ活動となり、甲子園や花園を目指す高校野球・ラグビーに代表されるようにさまざまなメディアによって取り上げられ、身体を酷使し「燃え尽き症候群」に代表されるような状況のものでは、一部のプロ指向の子どもを除いて、多くの子どもたちはその後にはスポーツを親しむことは少ない。

スポーツを分類すると競技スポーツ、レクリエーションスポーツなどに分類されるが実際の現場では、プロ指向の子どもと、健やかな体力を求めてやると言う子どもを分けて行うスポーツ活動は大変少なく、同じ競技でも内容やレベルによっては競技の特異性自体変わってくるものがある。こ

れまでのような、競技スポーツ一辺倒であった学校のクラブが、今後どのように変わっていくかが重要になってくる。生涯スポーツを普及させ、高齢になっても自立した生活ができ、健康寿命を延ばすためには、この時期の学校のクラブ活動のあり方が大きく関わってくる。今後は、新たな視点でスポーツを捉えることができるよう調査研究が必要とされる。

参考・引用文献

- 文部省，2000. 6，『文部省ニュース』。
- 日本体育協会，2000. 4，『指導者のためのスポーツジャーナル』。
- 総務庁，1995，『国勢調査（平成7年度）』。
- 霊巖郡庁，2000，『霊巖郡現況』。
- 秋月望・丹羽泉編，1997，『韓国百科』大修館書店。
- 森川貞夫編，1997，『必携・地域スポーツ活動入門』大修館書店。
- 森川貞夫編，1987，『地域に生きるスポーツクラブ』国土社。
- 宮下充正編，1996，『スポーツ・インテリジェンス』大修館書店。
- 松村和則，1993，『地域づくりとスポーツ社会学』道和書店。
- 武藤芳照ほか，1993『子どもの成長とスポーツのしかた』築地書店。
- 体育・スポーツ社会学研究会，1982，『体育・スポーツ社会学研究会1』道和書店。
- 体育・スポーツ社会学研究会，1987，『子どものスポーツを考える』道和書店。
- 高橋義雄，1994，『サッカーの社会学』NHKブックス。
- 大島裕史，2000. 8，『2002年ワールドカップ日韓の温度差——「体育立国」韓国（特集現代韓国文化事情）』Aura。
- アプロ21編集部，2000，『韓国の経済成長やソウルオリンピックで姿勢転換そして「地方参政権」問題へ（特集日本メディアに見る20世紀の「在日」—<新聞>はどのように報道したか）』アプロ21。
- 黄義龍ほか，2000，『韓国スポーツ情報の現状と課題』日本体育大学体育研究所雑誌。
- 黄義龍ほか，2000，『韓国におけるスポーツ産業の現状と課題』スポーツ産業学研究。
- 朴鎮敬，1999，『スポーツ産業と韓国の経済』スポーツ社会学研究
- 張世昌，1995，『韓国における体育・スポーツ社会学の研究動向に関する一考察』スポーツ社会学研究。
- 金恵子ほか，1997，『韓国におけるスポーツ参与の増大とスポーツ環境の変化』スポーツ社会学研究。
- 井上俊ほか，1999，『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社
- 石橋勇ほか，2001. 3，『日韓の生涯スポーツの現状と課題』アプローチ第9号。

石橋勇ほか, 2001. 9, 『高齢化社会と地域福祉 (3)』 広島修大論集第42巻第1号 (人文編)。

参考資料

日本 (千代田町)

韓国 (靈巖邑)

表 1-1 スポーツの実施率

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	128	47.4	47.4	47.4
いいえ	142	52.6	52.6	100.0
合計	270	100	100.0	

表 2-1 スポーツの実施率

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	86	21.5	21.5	21.5
いいえ	314	78.5	78.5	100.0
合計	400	100.0	100.0	

表 1-2 スポーツの種類

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	4	3.1	3.1	3.1
アーチェリー	12	9.4	9.4	12.5
サッカー	15	11.7	11.7	24.2
スキー	1	.8	.8	25.0
ソフトバレー	1	.8	.8	25.8
テニス	7	5.5	5.5	31.3
バスケットボール	19	14.8	14.8	46.1
バレーボール	24	18.8	18.8	64.8
ホッケー	8	6.3	6.3	71.1
弓道	1	.8	.8	71.9
剣道	6	4.7	4.7	76.6
柔道	7	5.5	5.5	82.0
卓球	8	6.3	6.3	88.3
野球	14	10.9	10.9	99.2
陸上	1	.8	.8	100.0
合計	128	100	100.0	

表 2-2 スポーツの種類

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	3	3.5	3.5	3.5
ウォーキング	1	1.2	1.2	4.7
サッカー	37	43.0	43.0	47.7
ジョギング	2	2.3	2.3	50.0
ダンベル	1	1.2	1.2	51.2
テコンドー	6	7.0	7.0	58.1
テニス	4	4.7	4.7	62.8
バスケットボール	5	5.8	5.8	68.6
バドミントン	4	4.7	4.7	73.3
ヘルス	4	4.7	4.7	77.9
ポーリング	3	3.5	3.5	81.4
合気道	10	11.6	11.6	93.0
水泳	1	1.2	1.2	94.2
走り	2	2.3	2.3	96.5
卓球	1	1.2	1.2	97.7
腕立て	2	2.3	2.3	100.0
合計	86	100.0	100.0	

石橋・日隈：高齢化社会と地域福祉（7）

表 1-3 始めたキッカケ

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 自分から	76	59.4	61.8	61.8
先生から	5	3.9	4.1	65.9
友だちから	23	18.0	18.7	84.6
親から	3	2.3	2.4	87.0
その他	16	12.5	13.0	100.0
合計	123	96.1	100.0	
欠損値 0	5	3.9		
合計	128	100.0		

表 2-3 スポーツを始めたキッカケ

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 自分から	63	73.3	73.3	73.3
友達から	11	12.8	12.8	86.0
親から	2	2.3	2.3	88.4
その他	10	11.6	11.6	100.0
合計	86	100.0	100.0	

表 1-4 一週間のスポーツ頻度

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 1～2日	17	13.3	13.4	13.4
3～6日	80	62.5	63.0	13.4
毎日	30	23.4	23.6	76.4
合計	127	99.2	100.0	
欠損値 0	1	.8		
合計	128	100		

表 2-4 一週間のスポーツ頻度

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 1～2日	32	37.2	42.7	42.7
3～6日	30	34.9	40.0	82.7
毎日	13	15.1	17.3	100.0
合計	75	87.2	100.0	
欠損値 0	11	12.8		
合計	86	100.0		

表 1-5 スポーツ活動の形態

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 学校の クラブ	105	82.0	88.2	88.2
地域の クラブ	6	4.7	5.0	93.3
その他	8	6.3	6.7	100.0
合計	119	93.0	100.0	
欠損値 0	9	7.0		
合計	128	100.0		

表 2-5 スポーツ活動の形態

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 学校の クラブ	38	44.2	44.7	44.7
地域の クラブ	17	19.8	20.0	64.7
その他	30	34.9	35.3	100.0
合計	85	98.8	100.0	
欠損値 0	1	1.2		
合計	86	100		

表 1-6 指導者の形態

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 学校の先生	94	73.4	79.7	79.7
地域の指導者	7	5.5	5.9	85.6
その他	17	13.3	14.4	100.0
合計	118	92.2	100.0	
欠損値 0	10	7.8		
合計	128	100.0		

表 2-6 指導者の形態

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 学校の先生	28	32.6	33.7	33.7
地域の指導者	18	20.9	21.7	55.4
その他	37	43.0	44.6	100.0
合計	83	96.5	100.0	
欠損値 0	3	3.5		
合計	86	100.0		

表 1-7 スポーツ中のケガ

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	71	55.5	55.5	55.5
いいえ	57	44.5	44.5	100.0
合計	128	100.0	100.0	

表 2-7 スポーツ中のケガ

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	37	43.0	44.0	44.0
いいえ	47	54.7	56.0	100.0
合計	84	97.7	100.0	
欠損値 0	2	2.3		
合計	86	100.0		

表 1-8 ケガの相談

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 指導者	39	30.5	36.4	36.4
親	25	19.5	23.4	59.8
その他	43	33.6	40.2	100.0
合計	107	83.6	100.0	
欠損値 0	21	16.4		
合計	128	100.0		

表 2-8 ケガの相談

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 指導者	17	19.8	28.3	28.3
親	18	20.9	30.0	58.3
その他	25	29.1	41.7	100.0
合計	60	69.8	100.0	
欠損値 0	26	30.2		
合計	86	100.0		

表 1-9 将来の継続性

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	72	56.3	58.1	58.1
いいえ	52	40.6	41.9	100.0
合計	124	96.9	100.0	
欠損値 0	4	3.1		
合計	128	100.0		

表 2-9 将来の継続性

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	55	64.0	67.1	67.1
いいえ	27	31.4	32.9	100.0
合計	82	95.3	100.0	
欠損値 0	4	4.7		
合計	86	100.0		

石橋・日隈：高齢化社会と地域福祉 (7)

表 1-10 高齢になってからの自信

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	44	34.4	34.6	34.6
いいえ	32	25.0	25.2	59.8
どちらとも 言えない	51	39.8	40.2	100.0
合計	127	99.2	100.0	
欠損値 0	1	.8		
合計	128	100.0		

表 2-10 高齢になってからの自信

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 はい	52	60.5	61.2	61.2
いいえ	9	10.5	10.6	71.8
どちらとも 言えない	24	27.9	28.2	100.0
合計	85	98.8	100.0	
欠損値 0	1	1.2		
合計	86	100.0		

表 1-11 スポーツとテレビ
ゲームの比較

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 スポーツ	118	43.7	45.6	45.6
テレビ ゲーム	54	20.0	20.8	66.4
どちら でもない	87	32.2	33.6	100.0
合計	259	95.9	100.0	
欠損値 0	11	4.1		
合計	270	100.0		

表 2-11 スポーツとテレビ
ゲームの比較

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 スポーツ	118	29.5	30.2	30.2
テレビ ゲーム	227	56.8	58.1	88.2
どちら でもない	46	11.5	11.8	100.0
合計	391	97.8	100.0	
欠損値 0	9	2.3		
合計	400	100.0		

表 1-12 放課後や休日の過ごし方

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 スポーツ	55	20.4	21.1	21.1
テレビ ゲーム	36	13.3	13.8	34.9
塾 (習い事)	1	.4	.4	35.2
その他	169	62.6	64.8	100.0
合計	261	96.7	100.0	
欠損値 0	9	3.3		
合計	270	100.0		

表 2-12 放課後や休日の過ごし方

	度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効 スポーツ	31	7.8	7.8	7.8
テレビ ゲーム	211	52.8	53.4	61.3
塾 (習い事)	65	16.3	16.5	77.7
その他	88	22.0	22.3	100.0
合計	395	98.8	100.0	
欠損値	0	5	1.3	
合計	400	100.0		

表 1-13 スポーツ施設の必要性

		度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	はい	104	38.5	41.1	41.1
	いいえ	38	14.1	15.0	56.1
	どちらとも 言えない	111	41.1	43.9	100.0
	合計	253	93.7	100.0	
欠損値	0	17	6.3		
合計		270	100.0		

表 2-13 スポーツ施設の必要性

		度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	はい	267	66.8	67.3	67.3
	いいえ	79	19.8	19.9	87.2
	どちらとも 言えない	51	12.8	12.8	100.0
	合計	397	99.3	100.0	
欠損値	0	3	.8		
合計		400	100.0		

表 1-14 指導者の必要性

		度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	はい	73	27.0	29.6	29.6
	いいえ	60	22.2	24.3	53.8
	どちらとも 言えない	114	42.2	46.2	100.0
	合計	247	91.5	100.0	
欠損値	0	23	8.5		
合計		270	100.0		

表 2-14 指導者の必要性

		度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	はい	236	59.0	60.4	60.4
	いいえ	95	23.8	24.3	84.7
	どちらとも 言えない	60	15.0	15.3	100.0
	合計	391	97.8	100.0	
欠損値	0	9	2.3		
合計		400	100.0		

表 1-15 スポーツと進学準備

		度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	受験	94	34.8	36.6	36.6
	スポーツ	30	11.1	11.7	48.2
	どちらとも 言えない	133	49.3	51.8	100.0
	合計	257	95.2	100.0	
欠損値	0	13	4.8		
合計		270	100.0		

表 2-15 スポーツと進学準備

		度数	%	有効 (%)	累積 (%)
有効	受験	247	61.8	63.3	63.3
	スポーツ	48	12.0	12.3	75.6
	どちらとも 言えない	95	23.8	24.4	100.0
	合計	390	97.5	100.0	
欠損値	0	10	2.5		
合計		400	100.0		

생애(평생)스포츠에 대한 한·일 비교조사

안녕하십니까?

건강을 유지하기 위해서는 평생을 통해 계속할 수 있는 스포츠를 아동기부터 하는 것이 중요합니다. 그래서 현재 고등학교를 다니는 학생을 대상으로 【한·일 청소년 스포츠 활동】에 대한 비교연구를 하고자 합니다. 여러분의 협조를 부탁드립니다.

----- 일본 히로시마 슈도대학 히쿠마 연구실 -----

- 1. 연령: () 세 학년 (1학년, 2학년, 3학년)
- 2. 성별: 남 여
- 3. 지역: 시 군 읍 면

***** 스포츠 활동에 대해서 *****

- 1. 귀하는 현재 스포츠 활동을 하고 있습니까? 1. 예 2. 아니오
 (예) 라고 답한 사람은 질문 2에서부터 대답해 주십시오.
 (아니오) 라고 대답한 사람은 질문 11에서부터 대답해 주세요.
- 2. 귀하는 무슨 스포츠를 하고 있습니까? ()
- 3. 귀하는 그 스포츠를 언제부터 시작했으며, 동기는 무엇입니까?
 (살부터 시작했음)
 1) 자기 자신이 하고 싶어서 2) 선생님의 추천으로 3) 친구의 추천으로
 4) 부모의 추천으로 5) 그밖에 ()
- 4. 귀하는 그 스포츠를 1주일에 어느 정도 하고 있습니까?
 1) 1일~2일정도 2) 3일~6일정도 3) 매일 4) 그밖에 ()
- 5. 그 스포츠는 어떤 활동입니까?
 1) 학교 클럽활동 2) 지역 클럽활동(학교외의 활동) 3) 그밖에 ()
- 6. 그 스포츠는 누가 지도합니까?
 1) 학교선생님 2) 지역의 지도자 3) 그밖에 ()
- 7. 그 스포츠를 하면서 부상을 경험한 적이 있습니까? 1) 예 2) 아니오
- 8. 귀하는 부상을 입었을 때 누구에게 상담합니까?
 1) 지도자에게 상담 2) 부모에게 상담 3) 그밖에 ()
- 9. 귀하는 그 스포츠를 장래에도 계속 할 예정입니까? 1) 예 2) 아니오
- 10. 귀하는 그 스포츠를 나이가 들어도 할 수 있다는 자신이 있습니까?
 1) 예 2) 아니오 3) 잘 모르겠다
- 11. 귀하는 스포츠와 TV(PC)게임 중에서 어느 쪽을 좋아합니까?
 1) 스포츠 2) TV(PC)게임 3) 어느쪽도 아니다
- 12. 귀하는 방과 후 또는 휴일에는 무엇을 가장 많이 합니까?
 1) 스포츠 2) TV(PC)게임 3) 공부 4) 그밖에 ()
- 13. 가까운 곳에 스포츠 시설이 있으면 더욱 더 스포츠를 할 수 있습니까?
 1) 예 2) 아니오 3) 어느쪽도 아니다
- 14. 스포츠 지도자가 가까이 있으면 더욱 더 스포츠를 할 수 있습니까?
 1) 예 2) 아니오 3) 어느쪽도 아니다
- 15. 귀하는 가까운 장래에 수험과 스포츠 중에서 어느 쪽을 선택합니까?
 1) 수험 2) 스포츠 3) 어느쪽도 아니다

***** 2002년 한일공동개최 월드컵 축구경기에 대해서 *****

- 1. 축구에 흥미가 있습니까? 1) 예 2) 아니오 3) 어느쪽도 아니다
- 2. 월드컵에 흥미가 있습니까? 1) 예 2) 아니오 3) 어느쪽도 아니다
- 3. TV로 월드컵을 시청하겠습니까? 1) 예 2) 아니오 3) 어느쪽도 아니다
- 4. 시험경기장에 가겠습니까? 1) 예 2) 아니오 3) 어느쪽도 아니다
- 5. 2002년의 월드컵은 어느 나라가 우승할까요? ()

대 단 히 감 사 합 니 다

개 요

이시바시 쯔요시 , 히구마 다케요시

본 연구 조사는 어린이들의 스포츠관(스포츠에 관한 의식)과 현상을 파악하여 일상생활에서의 생활 스포츠와의 관계, 또는 건강수명과의 관련성의 분석을 검토해 볼수 있다.

이제는 소자고령화 사회에 접어들고 있는 한국의 스포츠에 관한 어린이들의 의식조사를 실시했다. 서울올림픽을 계기로 국민들의 스포츠에 관한 관심이 높아지고, 스포츠경기를 중심으로 이루어져 온 정책으로부터 생활 스포츠정책으로 변화하고 있는 한국에서 현재 고등학교에 다니고 있는 학생들 대상으로 하여, 그들이 스포츠에 대해 어떻게 접하고 있는지 그 실태를 조사 집계해서, 시설 그리고 설비 등 하드웨어면과 지도자의 소프트웨어면과의 관련, 스포츠에 관한 의식 등, 데이터 조사를 바탕으로 분석했다. 또한, 일본(치요다 마찌)와 한국의 (영암읍)의 조사를 통하여 한일 비교를 동시에 실시 했다.

이번 조사에서 일본과 한국을 비교하고, 일본측이 스포츠를 더 많이 하고 있는것을 알수 있었다. 또한 한국에 있어서는 특히 여학생들의 스포츠 실시율이 매우 낮았다. 스포츠를 하는 빈도, 스포츠와 텔레비전 게임과의 비교, 방과후나 휴일을 보내는 방법,어떤 항목을 보더라도 일본이 한국보다 스포츠를 더 많이 하고 있으며 관심이 있다는 것을 알수 있었다. 그러나 활동 형태를 보면 학교 클럽활동이 대부분이고 지역에서의 활동은 적었다.

지역에 있어서 시설면에서도 일본이 한국보다 더 잘 갖추어져 있지만 한국측이 지역 스포츠 활동을 하고 있는 비율이 높았다. 또 장래 계속할 것인지에 대해서는 약간 한국이 위에 있다.

고령에 들어서면서부터의 자심감은 단연 한국이 높게 나타났다. 이와 같은 결과를 보면, 스포츠에 대한 만족도와 필요성을 강하게 느끼고 있는쪽은 한국이 높다고 추측할 수 있다. 한국의 경우, 역시 일본보다 하드웨어면이나 소프트웨어면이 뒤떨어져 있다. 한국경제의 파탄이 지방스포츠의 시설이나 설비도 늦어졌기 때문이다. 그렇기 때문에 시설의 필요성과 지도자의 필요성이 크게 대두되고 있다. 일본이나 한국이나 교육에 관해서는, 사회적으로 대단히 중요시 되어 있다. 특히 한국의 지방 출신자는 서울을 목표로 하는 경향이 매우 강하다.

그렇기 때문에 시험에 있어서는 일본보다 예민해져 있어서 이 기간중에 학생들은 스포츠를 할수있는 환경이 주어져 있지 않다. 이러한 사회적 구조가 생활 스포츠로써 계속할수 있는 운동(스포츠)의 즐기는 방법이나, 기본동작등을 몸에 익히기 위한 적절한 시기를 놓치게 된다고 말할 수 있다.

생활 스포츠를 보급시켜 나이가 들어서도 자립할 수 있고, 건강 수명을 연장시키기 위해서는 이 시기의 학교 클럽활동이 크게 좌우되고 있다.

이제부터는 새로운 시점에서 스포츠를 촉진시킬 수 있도록 연구조사가 요구되어지고 있다.

이상과 같이 조사연구 보고가 자세하게 정리되어 있다